

## 富山大学和漢医薬学総合研究所研究集会報告書

研究集会 タイトル	和漢医薬学総合研究所 特別セミナー
主催者	和漢医薬学総合研究所
日 時	平成 23 年 12 月 9 ～ 10 日
場 所	富山県民会館
担当者と 連絡先	主催者：門脇 真 TEL：076-434-7641 E-mail：makotok@inm.u-toyama.ac.jp
	研究所：門脇 真 TEL：076-434-7641 E-mail：makotok@inm.u-toyama.ac.jp
関連分野 (該当項目に○をつけて ください、複数可)	1. 資源科学 2. 病態制御 3. 臨床利用 4. その他 ( )
目的と 研究集会の 概略	<p>和漢医薬学総合研究所は、我が国の和漢医薬学研究分野の学術交流や共同研究の活性化のため、また、和漢医薬学研究分野の研究者人口の裾野を広げ和漢医薬学の研究分野の充実を図るため、国内関連研究者向けに特別セミナーを約 30 年間毎年開催している。今年度は、消化管生理学分野の門脇が担当し、12 月 9 ～ 10 日に開催した。</p> <p>今回のテーマである消化管疾患は和漢薬が最も多く使われている領域であるが、最近、炎症と消化管疾患の関連が大きな問題となっており、腸管粘膜免疫系の研究が急激に進展している。今回のセミナーでは、和漢薬による粘膜免疫系を治療標的とした治療の可能性、粘膜免疫系を創薬標的とした和漢薬関連の創薬の可能性を探ることを目的とした。これまでと同様に、講師として日本全国の著名な先端的研究者を招聘した。</p>
和漢医薬学の 科学的基盤形 成および関連 研究者コミュ ニティ形成へ の貢献	2 日間で約 150 名(うち県外約 30 名)の富山県及び全国の和漢医薬学研究者、薬学研究者、医学研究者、製薬企業研究者、医師、薬剤師、医薬系学生が特別セミナーに参加した。このセミナーを継続すること、異分野の先端的研究者との学術交流を図ることにより、和漢医薬学分野の新展開と研究の充実、そして和漢医薬学研究分野の研究者人口の拡大が期待される。
プログラム	<p>第 32 回 和漢医薬学総合研究所 特別セミナー 「和漢薬治療のターゲットとしての粘膜免疫機構」</p> <p>12 月 9 日 (金) I. 粘膜免疫系と疾患 12:40-13:10 演者 久松理一 慶應義塾大学医学部消化器内科学教室 演題 炎症性腸疾患の病態研究－ヒト腸管サンプルを用いたアプローチ</p> <p>13:10-13:40 演者 善本知広 兵庫医科大学先端医学研究所アレルギー疾患研究部門 演題 アレルギー性鼻炎の新しい発症メカニズム：花粉－IL-33－マスト細胞／好塩基球による鼻粘膜免疫機構</p>